

かわむらこどもクリニック NEWS

Volume 5 No 06

47号

平成9年 6月 1日

発行 かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE <http://www.ifnet.or.jp/kazu.k/>

子どもの病気 うそほんと?

院長

今回誤解されている子どもの病気、症状、対処法について、例を挙げて解説していきましょう。

内容のほとんどは、今までの新聞記事で紹介されています。もう少し詳しく知りたいときには、今までの記事を参考にして下さい。今回は熱の話ですが、新聞が欲しい方は受付まで申し出て下さい。

・熱が高いと脳に障害が出る。

何度も外来で話していますが、脳の病気や熱中症等で熱のコントロールができない場合や病気自体で脳が障害されることがあります。しかし一般的な風邪や肺炎等では、熱のために障害が出ることはありません。

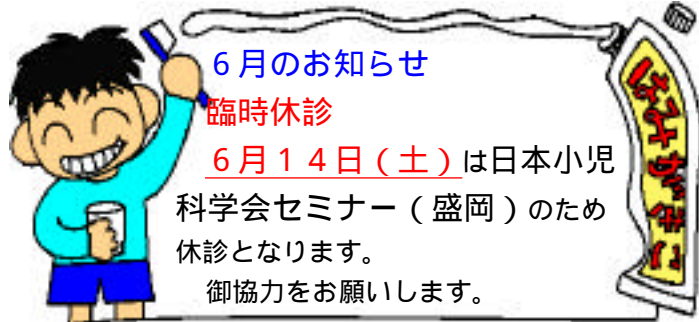
・熱が高いと耳が聞こえなくなったり、目が見えなくなったりする。

これももともとの病気で神経などが置かれる場合には可能性がありますが、熱の直接の原因ではないと考えられています。昔は薬による副作用ということがありましたが、今ではあまり使われず当院ではもちろん使用していません。

・熱が出たら保温に気をつける。

これも確かに当たり前のことです。熱が出た場合に環境作りの基本は、過ごしやすさです。熱が上がりが始めて寒けがするときは温め、熱が平衡に達したら涼しくしてあげることです。保温を気にしすぎるあまり、あまり色々なものでくるんでしまうとかえって熱が上がってしまうことがあります。夏などは、扇風機やクーラーを利用するのもよいでしょう。但し冷やし過ぎにはくれぐれも注意して下さい。

・熱が出たら、おでこに冷却シートを貼ったほうがよいのでしょうか。



6月のお知らせ
臨時休診
6月14日(土)は日本小児科学会セミナー(盛岡)のため休診となります。
御協力をお願いします。

熱が出たときにはおでこ(頭)を冷やすことは一般的に行なわれています。お母さんたちの中にも子どもの頭を冷やして看病してもらった記憶があるでしょう。おでこをやすだけで体温を下げるには不十分です。一時的に冷たくして、気持ちをよくしてあげる程度とされたほうがよいかも知れません。冷却シートを貼ったからといって安心しないで、その後のケアをちゃんとしてあげて下さい。



・熱が続くと肺炎になる。

熱が続くから肺炎になることはありません。もちろん肺炎だから、熱が続くのです。風邪などの原因となる細菌やウイルスの種類によって、病気の経過が規定されます。インフルエンザウイルスは、熱が続く重症なインフルエンザになるわけです。マイコプラズマは、感染すれば多くの場合肺炎を引き起こすこととなります。

・熱が高いとひきつける。

これはある意味では正しいことです。但し熱が上がれば、誰でもひきつけを起こすと考えことは誤解です。熱性痙攣の原因ははっきりわからないところがありますが、大体10人に1人の割合で見られます。全く熱を出さない人は少ないので、一般にはこの程度の割合と考えて下さい。起こしやすさには、熱の高さ(上昇の度合い)、遺伝的素因、ウイルス(病気)の種類が関係すると言われております。お母さんや兄弟に痙攣の既往があり、急に熱が上がる時に起こると考えて下さい。起こってもいらないのに心配するのでは不安ばかりつるだけです。

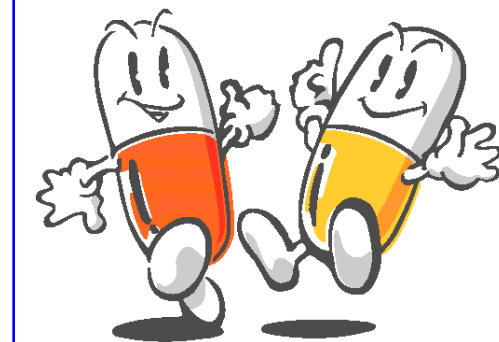
まだまだたくさんありますが、紙面の都合で今回はこの位にします。誤解はかえって子どもの症状を悪化させたり、お母さんたちに必要以上のストレス、心配を与えてしまいます。病気や対処法についての正しい知識を身に付け、子どもと共にお母さんも楽になる方法を考えてみましょう。

読者の広場

お母さんから頂いた投書を紹介します。『「中米さん！」中米さんはなんお読むのですかー。いつもいつも気になっていて、今さらきけないよ。どなたか教えて下さい。ナカマイさん、ナカゴメさん、チューベイさん。よいお産を!』(みおの母より)。お答えしましょう。名前はナカゴメです。皆さんの励まし応援を頂いて、無事女の子を出産いたしました。母児共に元気です。赤ちゃんの名前は「李華(モモカ)ちゃんです。励ましの手紙や言葉どうもありがとうございました。

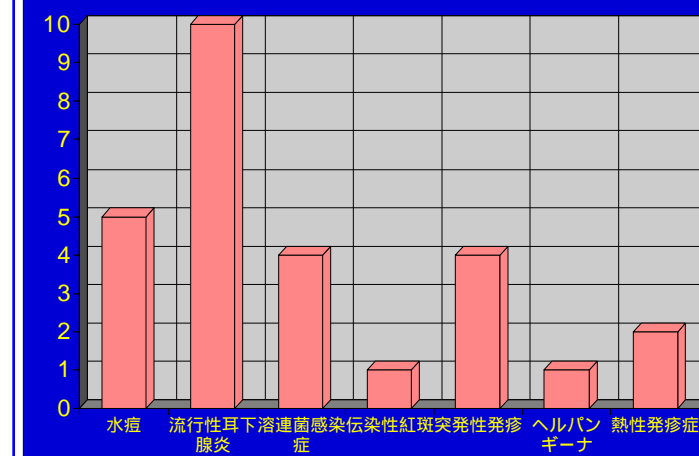


ところで先月の1面記事についての御意見がありませんでしたが?。書いてあったように、このままでは大変なことになるのです。はっきりした内容では、薬をもらうたびに日数に関係なく、薬代とは別にお金を負担(取られる)のです。薬が1種類なら負担は0円ですが、2~3種類では400円、4~5種類では700円を負担しなければなりません。内容でも変わってきますが風邪薬と解熱剤では400円、風邪薬・解熱剤・下痢止め・軟膏では700円となります。これが毎回取られることになるのです。風邪が長引いて一月に何回も受診すれば、その度に負担しなければなりません。5回受診した場合には2種類では2000円、4種類では3500円もの負担になるのです。今の状況では乳幼児の医療費助成で助成されるかどうかははっきりしていません。もちろん言うておきますが、このお金は当院や薬局に入るものではなく、国に入ることになっています。これでは2重取りどころか、薬の値段より負担が多くなるという矛盾が起こることもあります。日本小児科医会では、このような実情を説明する文書を国会議員や日本医師会に送り修正を求めてきました。6歳未満では薬剤費負担をなくすという修正案が出てきていますが今後どうなるか不明です。何かの折には、声を大にしてこのことを訴えることが必要です。必要であれば御協力お願い致します。



もう一つ投書を頂きました。院内掲示板のコンピュータのSCSI IDの重複を指摘頂きました。最近忙しく稼働していません。誰かのいたずらで重なってしまったのでしょうか。ありがとうございました。

5月の感染症の集計



5月の感染症の中で特徴的なのは、おたふく(流行性耳下腺炎)でした。まだまだ保育園や幼稚園を中心に流行しています。水痘も多く見られています。夏に流行する病気としてヘルパンギーナや手足口病がありますが、最近少し見られるようになってきました。病気については、以前のNEWSを参考にして下さい。

他に喘息が目立ってきています。喘息と診断されていなくても、去年の今頃咳が止まりにくかった場合は気にして下さい。

高熱が続く咳がひどく、レントゲンで気管支肺炎と診断できるようなちょっと気になる病気が目立ちます。経過からはウイルスの病気のように思えます。喘息と紛らわしいような咳も特徴です。

雑誌掲載のお知らせ

私の赤ちゃん6月号

(現在発売中)の

「夏かぜ」にご用心! を4ページに渡って担当しました。興味のある方はご覧下さい。残念ながら写真は載っていません。

6月24日(火)は、1歳6カ月健診のため

14:00~16:30まで休診です。健診・予防

接種はありません。御協力下さい。

編集後記

与えるべき情報と読みやすさの狭間で、ジレンマに陥っています。もっと読みやすくをモットーにしたいと思っ



目次に戻る

前の号

次の号